

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	研究ゼミナールB (Seminar of Study B)		授業コード	L120565
担当教員名	近藤 正一		科目ナンバリングコード	L31205
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分	建築コース(選択) インテリアデザインコース(選択) 環境・地域創生コース(選択)	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	近藤研究室に配属された学生のみ履修することができます。			
受講心得	何を自分の職務とするか、自身の人生の目標を見定めながら研究室を選択し、それぞれの課題に取り組んでください。			
教科書	適宜、参考図書を紹介します。			
参考文献及び指定図書	優良図書を随時紹介します。			
関連科目	それぞれの専門分野に関連する全科目			

授業の目的	研究ゼミナールAと同様に、上級生である卒業研究生や大学院生らと協力して、例えば、3次元CADソフトを利用して設計コンペの作品作成に参加したり、文献研究で理解した事柄の具体的な問題演習などに取り組めます。内容は、研究ゼミナールAと比べて高度となります。
授業の概要	半年間の研究ゼミナールAを終えた後、同じテーマをさらに追求したい場合は、引き続き同じ研究室で指導を受けます。興味や目標が変化した場合は、他の研究室で指導を受けることもできます。 一般的に、ある分野について専門的に学ぶためには、その分野の専門家に接し、自ら専門分野について日常的に取り組むことが大事です。また、3年生の後期という時期は、それまでの努力が実力となって、成果に現れてくる頃でもあります。したがって、研究ゼミナールBは、これまでに増して自主的に参加することが大切です。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：ゼミナールの準備 研究室活動を始めるための準備をします。原則として、各自座席と収納棚が与えられます。	配付資料 演習課題・レポートの提出
第2週：ゼミナール活動の紹介 研究室におけるこれまでの活動を紹介します。	配付資料 演習課題・レポートの提出
第3週：ゼミナール活動の準備 製図台やパソコン、その他の備品など、研究室の使い方を説明します。	配付資料 演習課題・レポートの提出
第4週：専門分野の基礎知識 それぞれの専門分野における研究室活動に必要な専門知識について、概説します。	配付資料 演習課題・レポートの提出
第5週：研究室活動1 一例として、見学会など、専門分野に関わる研究室活動を実施します。	配付資料 演習課題・レポートの提出
第6週：研究室活動2 一例として、講習会など、専門分野に関わる研究室活動を実施します。	配付資料 演習課題・レポートの提出

第7週：研究室活動3		配付資料 演習課題・レポートの提出
一例として、研究会など、専門分野に関わる研究室活動を実施します。		
第8週：研究室活動4		配付資料 演習課題・レポートの提出
一例として、討論会など、専門分野に関わる研究室活動を実施します。		
第9週：研究室活動5		配付資料 演習課題・レポートの提出
一例として、共同調査など、専門分野に関わる研究室活動を実施します。		
第10週：研究室活動6		配付資料 演習課題・レポートの提出
一例として、合同実験など、専門分野に関わる研究室活動を実施します。		
第11週：研究室活動7		配付資料 演習課題・レポートの提出
一例として、フィールドワークなど、専門分野に関わる研究室活動を実施します。		
第12週：研究室活動8		配付資料 演習課題・レポートの提出
一例として、データ処理など、専門分野に関わる研究室活動を実施します。		
第13週：研究室活動9		配付資料 演習課題・レポートの提出
一例として、分析・考察など、専門分野に関わる研究室活動を実施します。		
第14週：研究室活動10		配付資料 演習課題・レポートの提出
一例として、プレゼンテーションなど、専門分野に関わる研究室活動を実施します。		
第15週：後期のまとめ		配付資料 演習課題・レポートの提出
これまでの研究室活動のまとめをします。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー I :ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①自分の専門分野を見つけ出し、問題意識をもつ。
【知識・理解】	②専門分野に関係する資格試験に挑戦する。
【技能・表現・コミュニケーション】	③具体的なフィールドワークや実験を実践する。 ④設計競技や展示会など、課外活動に積極的に参加する。
【思考・判断・創造】	⑤専門分野への問題意識と探究心を抱くことができる。

○成績評価基準(合計100点)	合計欄	100点
------------------------	-----	------

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	10点
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		15点	10点
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点	20点
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点	5点
(「人間力」について) ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	原則として毎回、講義の最後に授業内容について課題を出します。提出をもって出席に代えますので、課題が課されたら、かならず提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	研究ゼミナールにおいて、プレゼンテーションおよびコミュニケーションの能力は重要です。達成水準の目安は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。